

CFTC建玉報告:円/ドル、ユーロ/ドル(5月4日時点)

米商品先物取引委員会(CFTC)が7日に発表した建玉報告によると、5日時点のシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)IMM通貨先物円(対ドル)相場の大口投機筋(非商業部門)のポジションの売越幅は4万1492枚となり、前週比7017枚縮小。期間中に、投機筋は買いポジションを増やし、売りポジションを減らした。

期間中の円(対ドル)は軟調。29日に発表された2021年1~3月期の米実質GDP(国内総生産)速報値は、経済成長の加速を示した。また、米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は3日、米国の景気回復が「着実に前進している」との認識を示した他、米国の良好な経済指標を背景に米国債利回りが上昇し、対主要国通貨でのドル高が進行した。その後、イエレン長官が4日、バイデン政権の4兆ドル規模の成長戦略について、「景気が過熱しないように金利を引き上げる必要があるかもしれない」と述べたこともドルが買われた要因となった。ただ、イエレン氏はその後に利上げを予想したり、米連邦準備制度理事会(FRB)勧めたりしたものではないと発言を軌道修正したため、外国為替市場の反応は一時的なものに留まった。

期間中のユーロ(対ドル)は堅調。大口投機筋の買越幅は8万4829枚となり、前週比3862枚拡大。

欧州中央銀行(ECB)のデギンドス副総裁は3日、ユーロ圏経済は1~3月期に予想以上に低迷し、不確実性が残っていると指摘したことがユーロの売り材料となった。また、良好な米経済指標を背景とした米長期金利の上昇も、欧米の金利差を意識したユーロ売りドル買いが進行した。

日付	円/ドル		ユーロ/ドル	
	終値	枚数	終値	枚数
01/05	102.72	50,190	1.2294	142,991
01/12	103.75	50,520	1.2207	155,890
01/19	103.89	50,014	1.2128	163,466
01/26	103.60	44,992	1.2160	165,344
02/02	104.97	44,629	1.2042	137,003
02/09	104.57	34,618	1.2117	140,222
02/16	106.04	37,182	1.2104	140,006
02/23	105.24	28,622	1.2149	138,365
03/02	106.67	19,270	1.2089	125,988
03/09	108.46	6,514	1.1898	101,964
03/16	108.98	-39,368	1.1900	89,976
03/23	108.56	-53,525	1.1849	93,322
03/30	110.34	-59,481	1.1714	73,739
04/06	109.74	-57,989	1.1875	67,522
04/13	109.05	-58,312	1.1946	66,851
04/20	108.08	-59,819	1.2033	80,808
04/27	108.68	-48,509	1.2090	80,967
05/04	109.33	-41,492	1.2013	84,829
前週比	0.65	+7,017	-0.0077	+3,862

